

全体総括

計画期間：平成27年4月～令和2年3月（5年0月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、平成27年3月に計画の認定を受け、「活力があり、環境にやさしく、暮らしたくなる中心市街地の創造」をテーマに掲げ、各種事業に取り組んできた。

特に計画で主要事業と位置付けていた駅周辺都市整備計画基本構想区域（約38ha）の北に隣接する約22.3haの中央北地区（以下「キセラ川西」という。）での各種整備事業についてはすべての事業が予定通り完了した。キセラ川西せせらぎ公園を中心に自然環境を生かしたキセラ川西のまち全体が市民の憩いの場となっている。また、平成30年度に文化・福祉関係複合施設であるキセラ川西プラザが、令和元年8月には（仮称）キセラ川西商業複合施設整備事業（以下「オアシスタウンキセラ川西整備事業」という。）が完了し、大型商業施設がオープンしたことにより、各施設の利用者が増加し、新たなにぎわいが創出されている。

このほか令和元年度には、地域に根差したイベント開催などで精力的に活躍する2名がタウンマネージャーに就任、さらに大学教授がアドバイザーとして就任し、にぎわいづくりのプレイヤーの発掘育成を強化した。そして、川西市中心市街地活性化協議会を中心に、商店会や商業団体、商工会等と連携して、まちの回遊・滞留を促進するためのネットワークの構築や様々なイベント事業にチャレンジし、以前にも増してにぎわいが創出された。特に平成29年度に新規事業として追加した「藤ノ木さんかく広場・整備運営事業」では、市民・事業者等が主体となって広場を活用した様々なテーマのイベントが年々増加している。また、イベントの利用以外にも、日常的にキッチンカーを活用する事業者が出店することで、訪れる市民も増加しており、新たなにぎわいの場となっている。

このように各所で、イベント開催や日常的な市民の往来が活性化し、にぎわいが創出されているが、川西能勢口駅周辺とキセラ川西の2つの核を結び、まち全体の一体的な回遊性の向上が課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度3月31日）

（中心市街地 区域）	平成26年度 （計画前年度）	平成27年度 （1年目）	平成28年度 （2年目）	平成29年度 （3年目）	平成30年度 （4年目）	令和元年度 （最終年度）
人口	8347	8429	8615	8737	8801	8769
人口増減数	82	82	186	122	64	-32
自然増減数	-25	-19	-31	-11	0	-57
社会増減数	38	101	220	124	58	33
転入者数	656	437	497	435	458	395

## 2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

### 【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した

順調に進捗したとはいえない

### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

## 3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

計画していた事業は主要事業を中心に遅延なく実施できたため、概ね順調に進捗・完了したといえる。市全体を取り巻く環境としては、中心市街地にキセラ川西が整備されたことにより、本市の新しいまちの顔として、新たなにぎわいが創出されている。一方で、前期計画でリニューアルした川西能勢口駅周辺も駅前施設を中心ににぎわいをみせているが、川西能勢口駅周辺とキセラ川西の回遊性は低く、課題となっている。

各種指標を確認すると、「人口の社会増減」としては、キセラ川西マンションが平成27年度末に竣工し、202戸がすべて契約済みとなったことから、平成27年度の101人から令和元年度の107人へ計画通り増加し、目標を達成している。しかし、「歩行者・自転車通行量(休日)」と「来街者の平均滞留時間」は、目標値を達成出来なかった。

個々の指標を見比べると、「歩行者・自転車通行量(休日)」では、平成28年度には64,996人まで落ち込んだものの、その後ゆるやかに増加し、令和元年度には67,971人となった。これはキセラ川西で、キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道が完成したことから利用者が増えたものと考えられる。特に平成30年度にオープンしたキセラ川西プラザの令和元年度の来館者数は121,702人となっており、多くの人々が利用している。また令和元年度には、オアシスタウンキセラ川西がオープンし、歩行者・自転車通行量調査のキセラ川西へ向かう調査地点、の休日の結果人数が合計で平成27年度の3,528人から令和元年度は5,127人と増加している。

「来街者の平均滞留時間」では、平成28年度から平成30年度までは、目標値を超えていた。令和元年度は調査日程に悪天候が重なったこともあり、目標値まで0.1時間至らなかったが、全体としての滞留時間は増加していると実感できる。

このように計画していた主要事業が完了し、各調査結果の数値の推移を見ると、計画当初より増加傾向にあるため、中心市街地においては若干の活性化が図られたと考える。

## 4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

### 【詳細を記載】

川西市中心市街地活性化協議会は、行政、関係団体等と協議・調整を重ねながら、中心市街地活性化事業に対して、意見や提案を行うとともに、他団体の支援を行うなど各関係機関と地域との懸け橋としての役割を果たしてきた。

中心市街地活性化基本計画の主要事業であるキセラ川西の整備が計画通り完了し、川西

のまちに新たなにぎわいの拠点が創出された。また、令和元年度には、タウンマネージャーを2人体制とし、積極的に中心市街地エリアの事業者などを巻き込んだ活動を行った結果、藤ノ木さんかく広場の運営においては、イベント開催だけでなく、キッチンカーが定期的に出店するなど、周辺住民の日常的な利用が定着しつつある。その他にも、中心市街地エリアに新たな飲食店等が複数オープンするなど、まち全体のにぎわいも感じられる様になり、各事業の効果が出てきていると考えられる。

しかし、各個別目標の調査結果では、「歩行車・自転車通行量（休日）」と「来街者の平均滞留時間」では、目標値を下回る結果となっている。これは、川西能勢口駅周辺、キセラ川西と2つのにぎわいの拠点があるにも関わらず、相互の回遊性が低いことが原因であると考えられる。この2つの拠点をつなぐためにも、藤ノ木さんかく広場の積極的な活用やまち全体を回遊したくなるような仕掛けづくりや新たな店舗の出店などにより魅力ある中心市街地の創造が必須である。

今後も令和2年度からの中心市街地活性化基本計画に基づき、各事業を進めていくなかで、引き続き、官民一体となって中心市街地の活性化に向けて取り組む所存である。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

### 【詳細を記載】

#### ○まちなか滞留・実感調査

調査日：令和元年11月17日、18日のいずれも9時～20時

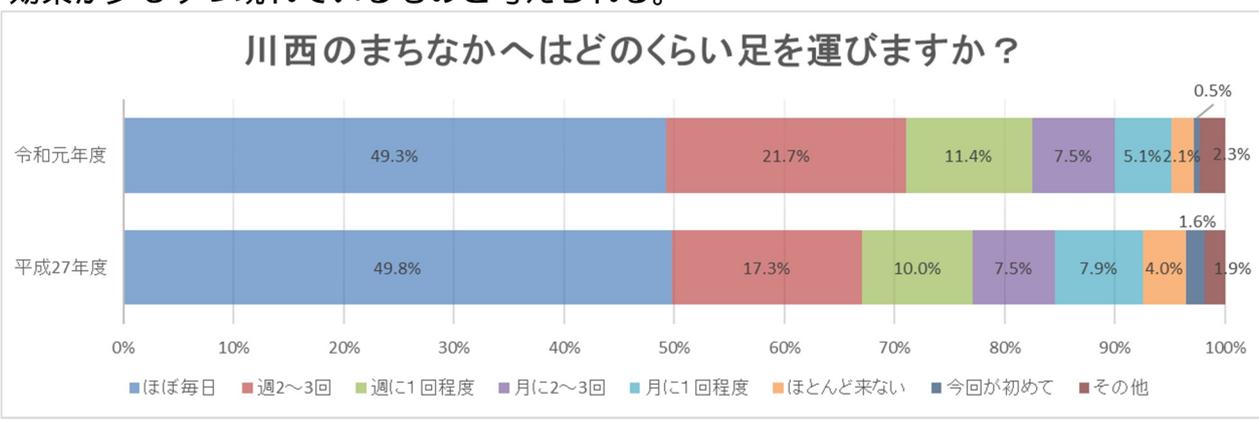
調査方法：川西能勢口周辺を訪れた人に対する聞き取りによるアンケート

有効サンプル数：428件

#### ・中心市街地への来街頻度

毎年実施している「まちなか滞留・実感調査」において、中心市街地を訪れていた人を対象に「まちなかへはどのくらい足を運びますか？」という中心市街地への来街頻度に関するアンケートを行った。

計画策定時の平成27年度と比較すると、「ほぼ毎日」訪れる人には大きく変化はないが、「週2～3回」訪れる人は4.4%増加しており、「週に1回程度」訪れる人までの合計値を比較すると5.3%増加している。中心市街地で実施した各事業の取り組みの効果が少しずつ現れているものと考えられる。



## 6. 今後の取組

本計画の取り組みにより、特に川西能勢口駅周辺及びキセラ川西はにぎわいが生まれ  
ており、これを今後も継続させ、中心市街地全体に波及させていくことが重要である。

今後はこれまでの成果を生かしながら、令和2年度からの川西市中心市街地活性化基  
本計画に基づき、グリーンスローモビリティ導入事業や中心市街地空き店舗等出店支援  
事業などの新たな事業を推進することによって、川西能勢口駅周辺とキセラ川西相互の  
回遊性の向上を図り、中心市街地全体に恒常的なにぎわいをもたらすとともに、誰もが  
まち全体を散策したくなる魅力ある場所となるようなまちづくりを進めていく。

合わせて、今後も目標の達成状況に関する評価事項を調査、検証し、PDCA サイクルを  
継続していく。

(参考)

### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
多彩な活動や交流 が広がる中心市街 地の創造	歩行者・自転車 通行量(休日)	67,830人 /日 (H26)	71,727人 /日 (R1)	67,971人 /日 (R1)	R1.11	B2
	来街者の平均滞 留時間	2.04時間 (H26)	2.42時間 (R1)	2.32時間 (R1)	R1.11	B2
	年間商品販売額 (小売業) 参考指標	49,000百 万円 (H26)	54,000百 万円 (R1)	44,853百 万円 (R1)	H28	C
暮らしたくなる魅力 的な中心市街地の 創造	人口の社会増減	4人/年 (21fy-24 fy平均)	106人/ 年 (27fy-R1 fy平均)	107人/ 年 (27fy-R1fy 平均)	R2.3	A
	年間商品販売額 (小売業) 参考指標	49,000百 万円 (H26)	54,000百 万円 (R1)	44,853百 万円 (R1)	H28	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

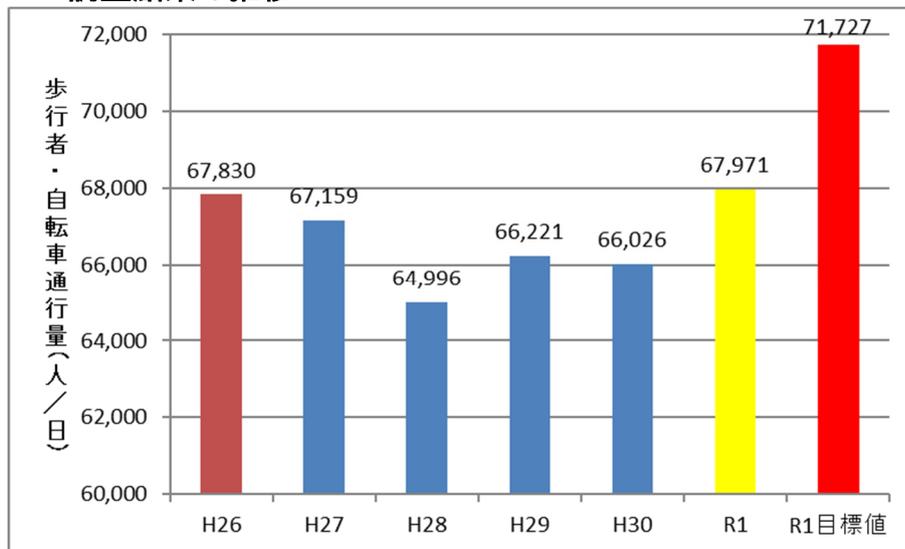
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

「歩行者・自転車通行量（休日）」 目標設定の考え方認定基本計画 P.68～P.72 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H26	67,830 人/日 (基準年値)
H27	67,159 人/日
H28	64,996 人/日
H29	66,221 人/日
H30	66,026 人/日
R1	67,971 人/日
R1	71,727 人/日 (目標値)

調査方法：歩行者・自転車通行量調査

調査月：毎年11月実施

調査主体：川西市中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地における休日10地点の歩行者及び自転車数

### 2. 目標の達成状況【B2】

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。目標数値には達しなかったが、計画期間の歩行者・自転車通行量の推移を見ていくと、平成28年度には計画策定時の数値から大幅に減少したが、主要事業である「キセラ川西プラザ整備事業」や「中央公園整備事業」等の各事業の完了に伴って増加に転じている。川西能勢口駅周辺からキセラ川西までの回遊性の向上が徐々に図られていると考えられる。しかし、最新の実績は目標値の80%には及んでいないため、達成状況はB2とした。

### 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・08：キセラ川西プラザ整備事業（川西市）

事業実施期間	平成26年度～平成30年度【済】
事業概要	中心市街地において、人々のであいとふれあいの場の創出を図るために位置付けている事業であり、文化ホールに加えて、福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設を整備することで、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らしにぎわい再生事業(中央北地区)) (国土交通省)(平成28年度～平成30年度)
目標値・最新値及び達成状況	目標値 944人/日 最新値 1332人/日 目標達成
達成した(出来なかった)理由	事業が予定通り完了し、施設の運用が開始したことにより、施設利用者が増加したため。
計画終了後の状況(事業効果)	平成30年9月に福祉等関連施設、11月に文化関連施設がオープンし、誰もが気軽に訪れる施設として利用されている。 年間来館者数も121,702人で見込みを大きく上回り、市民の

	文化芸術・活動拠点として多くの方に利用され、中心市街地内の新たなにぎわい拠点としての効果が発現している。 また、隣接するキセラ川西せせらぎ公園でのイベントと連携することで、キセラ川西のにぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	施設の利用促進を図るとともに、隣接するキセラ川西せせらぎ公園や民間商業施設と連携したイベント等を推進し、さらなるにぎわいの創出を図る。

．06：中央公園整備事業

事業実施期間	平成24年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成24年度～平成31年度]
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる公園で、周辺には総合体育館や市民温水プールなどがあり、これらの施設との連携が期待される。市民の憩いの場であるとともに、防災機能を有した公園を整備することで、安全で快適な中心市街地を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省）（平成24年度～平成29年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省）（平成24年度～平成31年度）]
目標値・最新値及び達成状況	目標値 1,168人/日 最新値 544人/日 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	事業は予定通り完了したが、来街者の認知不足などにより、川西能勢口駅周辺からキセラ川西までの回遊性を向上させるまでには至らなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成29年7月8日に防災機能を有するキセラ川西せせらぎ公園が開園した。 開園後は、老若男女問わず日常的な利用が行われており、市民の憩いの場となっている。また、市民が主体となったイベントも積極的に実施されており、公園及びまちの活性化につながるが見込まれる。
事業の今後について	事業は完了しているが、今後も公園の活用方法について検討を行うことによって、まちの活性化につなげていく。

．05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）

事業実施期間	平成27年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成27年度～平成28年度]
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる遊歩道を整備することにより、キセラ川西内の回遊性を高めるとともに、コミュニケーションの場としての空間を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生区画整理事業・効果促進事業）（国土交通省）（平成27年度～平成28年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 1,168人/日 最新値 544人/日 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	事業は予定通り完了したものの、来街者の認知不足などにより、川西能勢口駅周辺からキセラ川西までの回遊性を向上させるまでには至らなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成29年4月3日にせせらぎ遊歩道南線が、11月27日にせせらぎ遊歩道北線が開通した。 開通後は、ワークショップで結成された自然観察チームやホテル復活プロジェクトのメンバーの活躍の場になっており、市民に親しま

	れる遊歩道になることが期待される。
事業の今後について	事業は完了しているが、今後は遊歩道の景観を維持し、公園との一体的な活用により、まちの活性化につなげていく。

． 11：キセラ川西マンション建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 1,785人/日 最新値 1,785人/日 目標達成
達成した（出来なかった）理由	予定通り事業が完了するとともに、キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道も完成し、自然と調和したまち全体のイメージが実現したことにより、202戸すべてが契約済みとなったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観が実現されることでにぎわいが創出し、202戸すべてが契約済みとなったことにより、キセラ川西の人口増加に寄与した。
事業の今後について	今後はキセラ川西せせらぎ公園等の運営などでにぎわいを創出しながら、中心市街地の居住人口を維持していくことに努める。

4． 今後の対策

歩行車・自転車通行量の増加に向けた事業については、概ね予定通り完了したものの、川西能勢口駅周辺とキセラ川西の回遊性が図れなかったため、目標値の達成には至らなかった。

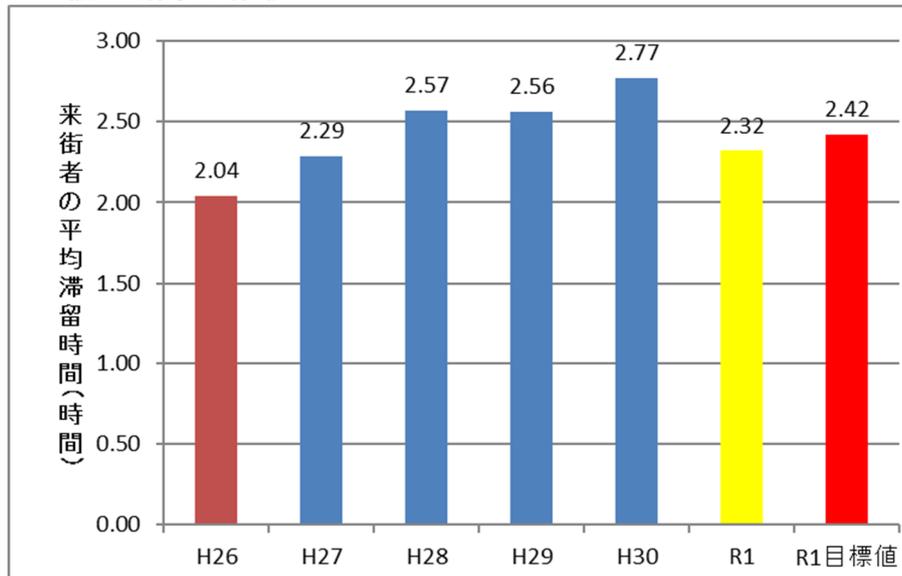
しかし、令和元年度の調査地点、の結果を見ると、計画策定時の平成27年度より各地点とも500人/日以上増加している。これは、計画期間中にキセラ川西せせらぎ公園やキセラ川西プラザなどが完成し、日常的な利用者が増加したことによるものと考えている。

また、令和元年8月にはオアシスタウンキセラ川西が完成したことにより、キセラ川西へ訪れる人が増加し、全体的な歩行車・自転車通行量も増加傾向にある。

今後は、令和2年度からの川西市中心市街地活性化基本計画に基づき、新たに「グリーンスローモビリティ導入事業」、「中心市街地案内サイン板設置事業」や「シェアサイクル導入事業」などの川西能勢口駅周辺とキセラ川西の回遊性の更なる向上を図っていく。

「来街者の平均滞留時間」 目標設定の考え方認定基本計画 P.72～P.76 参照

## 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H26	2.04 時間 (基準年値)
H27	2.29 時間
H28	2.57 時間
H29	2.56 時間
H30	2.77 時間
R1	2.32 時間
R1	2.42 時間 (目標値)

調査方法：まちなか滞留・実感調査（アンケート）

調査月：6～7月（H27年～H30年）、11月（R1年）

調査主体：(株)地域環境計画研究所

調査対象：川西能勢口駅周辺

## 2. 目標の達成状況【B2】

来街者の平均滞留時間の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

令和元年度は目標値には達しなかったが、調査を平成27年度から平成30年度とは違う季節に実施したことと2日間の調査日のうち令和元年度のみ平日の天気が雨であったことが原因と考えられる。

主要事業である「キセラ川西プラザ整備事業」や「中央公園整備事業」等の各事業が完了し、利用者が増加したことから、日常的なにぎわいが創出されたが、最新の実績が目標値の80%には及んでいないため、達成状況はB2とした。

## 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

08：キセラ川西プラザ整備事業（川西市）

事業実施期間	平成26年度～平成30年度【済】
事業概要	中心市街地において、人々のあいとふれあいの場の創出を図るために位置付けている事業であり、文化ホールに加えて、福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設を整備することで、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らしにぎわい再生事業（中央北地区））（国土交通省）（平成28年度～平成30年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 0.07時間 最新値 0.09時間 目標達成
達成した（出来なかった）理由	事業が予定通り完了し、施設の運用が開始したことにより、施設利用者が増加したため。
計画終了後の状況	平成30年9月に福祉等関連施設、11月に文化関連施設がオープン

(事業効果)	ンし、誰もが気軽に訪れる施設として利用されている。 年間来館者数も121,702人で見込みを大きく上回り、市民の文化芸術・活動拠点として多くの方に利用され、中心市街地内の新たなにぎわい拠点としての効果が発現している。 また、隣接する中央公園でのイベントと連携することで、キセラ川西のにぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	施設の利用促進を図るとともに、隣接するキセラ川西せせらぎ公園や民間商業施設と連携したイベント等を推進し、さらなるにぎわいの創出を図る。

. 06：中央公園整備事業（川西市）

事業実施期間	平成24年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成24年度～平成31年度]
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる公園で、周辺には総合体育館や市民温水プールなどがあり、これらの施設との連携が期待される。市民の憩いの場であるとともに、防災機能を有した公園を整備することで、安全で快適な中心市街地を形成する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省）（平成24年度～平成29年度） [認定基本計画：社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）（国土交通省）（平成24年度～平成31年度）]
目標値・最新値及び達成状況	目標値 0.06時間 最新値 0.028時間 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	事業は予定通り完了したものの、来街者の認知不足などにより、川西能勢口駅周辺からキセラ川西までの回遊性を向上させるまでには至らなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成29年7月8日に防災機能を有するキセラ川西せせらぎ公園が開園した。 開園後は、老若男女問わず日常的な利用が行われており、市民の憩いの場となっている。また、市民が主体となったイベントも積極的に実施されており、公園及びまちの活性化につながるが見込まれる。
事業の今後について	事業は完了しているが、今後も公園の活用方法について検討を行うことによって、まちの活性化につなげていく。

. 05：都市計画道路せせらぎ遊歩道整備事業（川西市）

事業実施期間	平成27年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成27年度～平成28年度]
事業概要	キセラ川西のシンボルとなる遊歩道を整備することにより、キセラ川西内の回遊性を高めるとともに、コミュニケーションの場としての空間を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生区画整理事業・効果促進事業）（国土交通省）（平成27年度～平成28年度）
目標値・最新値及び達成状況	目標値 0.06時間 最新値 0.028時間 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	事業は予定通り完了したものの、来街者の認知不足などにより、川西能勢口駅周辺からキセラ川西までの回遊性を向上させるまでには至らなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成29年4月3日にせせらぎ遊歩道南線が、11月27日にせせらぎ遊歩道北線が開通した。

	開通後は、ワークショップで結成された自然観察チームやホテル復活プロジェクトのメンバーの活躍の場になっており、市民に親しまれる遊歩道になることが期待される。
事業の今後について	事業は完了しているが、今後は遊歩道の景観を維持し、公園との一体的な活用により、まちの活性化につなげていく。

． 11：キセラ川西マンション建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 0.05時間 最新値 0.05時間 目標達成
達成した（出来なかった）理由	予定通り事業が完了するとともに、キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道も完成し、自然と調和したまち全体のイメージが実現したことにより、202戸すべてが契約済みとなったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観が実現されることでにぎわいが創出し、202戸すべてが契約済みとなったことにより、キセラ川西の人口増加に寄与した。
事業の今後について	今後はキセラ川西せせらぎ公園等の運営などでにぎわいを創出しながら、中心市街地の居住人口を維持していくことに努める。

． 36：川西まちなか美術館（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成25年度～令和元年度【済】
事業概要	中心市街地の公共施設や商業施設などに、若手やこれからの活躍が期待されるアーティストの作品などを飾るとともに、まちを散策しながら全会場を回るアートツアーやライブペイント、アートパフォーマンスを実施することにより、来街者を集めることで、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 0.367時間（各種ソフト事業を継続して実施することによる相乗効果で増える時間） 最新値 時間の内数（各種ソフト事業実施時に滞在時間を調査していないため、最新値は不明） 全体目標未達成
達成した（出来なかった）理由	まちの魅力をPRする機会になったが、来街者が滞留する効果は限定的だったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成25年度から実施している本事業は、毎年恒例のイベントとして定着してきていたが、参加者及び出展者の固定化などにより、令和元年度で本事業は終了となる。本事業は、長期間にわたり作品をまちなかに展示することで、まち全体を回遊しながらアートに触れることができ、楽しみながらまちを散策できるイベントとして、まち全体のにぎわいを創出した。

事業の今後について

令和元年度で本事業は終了するが、市民主導型で今後もアートイベントを行い、まちのにぎわいを図っていく。

#### 4. 今後の対策

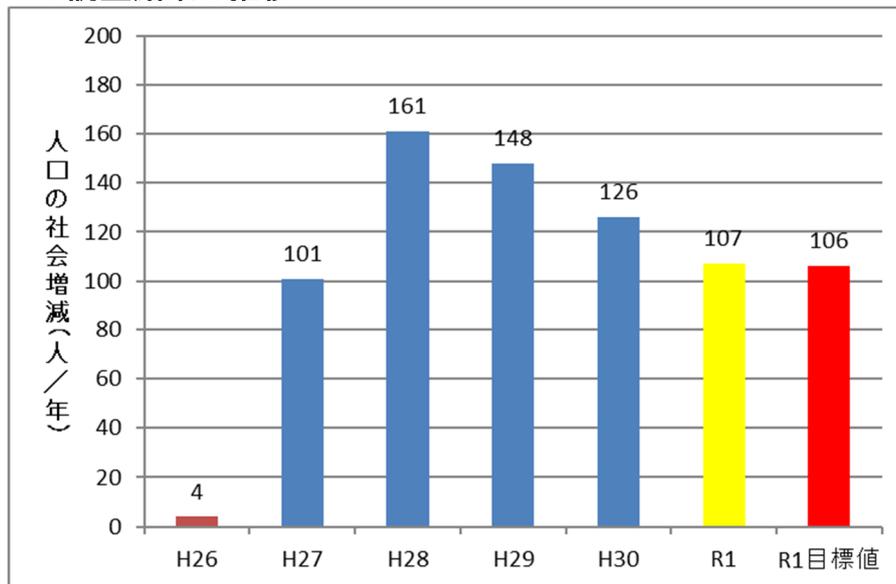
来街者の平均滞留時間の増加に向けた事業については、概ね予定通り完了したものの、まちの魅力をPR不足などが原因で、目標値の達成には至らなかった。

しかし、計画期間中にキセラ川西が整備されたことで日常的な利用者が増加し、さらに各種イベントを実施したことによりまちなかをPRできたことによって、滞留時間は計画策定時の平成27年度より増加し、一定の成果を得たと考えている。

今後は、これまでに整備したキセラ川西せせらぎ公園や藤ノ木さんかく広場、道路占有の特例を活用した川西能勢口駅前のペDESTリアンデッキの活用などを推進することで滞留したくなる魅力のある空間にしていくことによって、来街者の滞留時間の増加を図っていく。

「人口の社会増減」 目標設定の考え方認定基本計画 P.77～P.79 参照

#### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H26	4人/年 (21fy-24fy平均) (基準年値)
H27	101人/年 (27fy-R1fy平均)
H28	161人/年 (27fy-R1fy平均)
H29	148人/年 (27fy-R1fy平均)
H30	126人/年 (27fy-R1fy平均)
R1	107人/年 (27fy-R1fy平均)
R1	106人/年 (27fy-R1fy平均) (目標値)

調査方法：住民基本台帳データから毎年度の人口の社会増減集計

調査月：毎年4/1現在

調査主体：川西市

調査対象：中心市街地エリア

#### 2. 目標の達成状況【A】

人口の社会増減の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり完了した。

計画期間の人口の社会増減の推移を見ていくと、キセラ川西マンション建設事業が完了し、入居が始まった平成28年度が最も多く、事業効果が顕著に表れている。その後も主要事業である「キセラ川西プラザ整備事業」や「中央公園整備事業」等の各事業の完了に伴い、住環境や利便性が向上し、人口の社会増減は毎年目標値を越えていることから、達成状況はAとした。

#### 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・11：キセラ川西マンション建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	キセラ川西に、環境共生型ライフスタイルを提案・実践する住宅供給を促進することで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 454人 最新値 593人 目標達成
達成した（出来なかった）理由	予定通り事業が完了するとともに、キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道も完成し、自然と調和したまち全体のイメージが実現したことにより、202戸すべてが契約済みとなったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成25年度から実施しているPFI事業の一環として、民間事業者が、平成26年度から着工し、平成27年度末に完了。キセラ川西せせらぎ公園やせせらぎ遊歩道が完成し、調和した景観が実現されることで賑わいが創出し、202戸すべてが契約済みとなったことにより、キセラ川西の人口増加に寄与した。
事業の今後について	今後はキセラ川西せせらぎ公園等の運営などでにぎわいを創出しながら、中心市街地の居住人口を維持していくことに努める。

・12：サービス付高齢者向け住宅施設整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成27年度【済】
事業概要	高齢者の居住機能の強化を図るために、川西能勢口駅前にサービス付住宅施設を整備することで、中心市街地の居住機能を向上させる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 55人 最新値 55人 目標達成
達成した（出来なかった）理由	事業が予定通り完了し、平成27年10月には開設され、55戸全て入居し、入居者数が55人となったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成27年7月から事業を開始している。令和2年3月現在、55戸すべて入居していることから、中心市街地における社会増に寄与しているものと考えられる。
事業の今後について	事業は完了しているため、今後も居住機能を高める施設として、中心市街地の社会増に寄与していくものと考えている。

4. 今後の対策

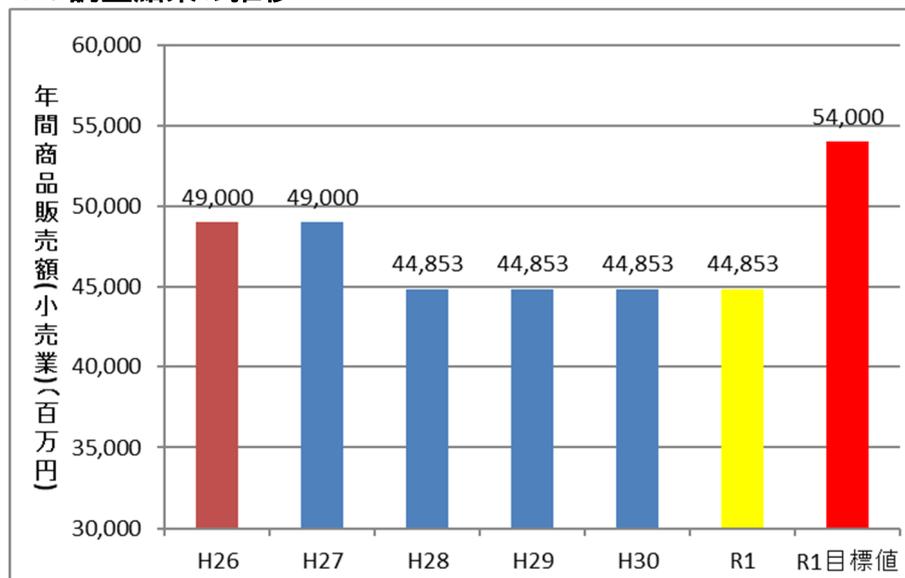
人口の社会増減の増加に向けた事業については、概ね予定通り完了し、目標値を達成した。主要事業である「キセラ川西マンション建設事業」や「サービス付高齢者向け住宅施設整備事業」のすべてに入居され、居住者の増加につながった結果だと考えられる。

今後は、中心市街地内への川西北幼稚園・川西北保育所の一体化施設の整備、（仮称）市立総合医療センターキセラ川西センター整備事業による医療環境の整備や民間マンションの建設事業を進めていくことによって、更なる社会増を見込んでいる。

また、医療環境の充実や住環境の整備などのハード事業だけでなく、キセラ川西せせらぎ公園や藤ノ木さんかく広場などを活用し、日常的なにぎわいを創出するソフト事業も行うことで、まちなかの魅力を向上し、中心市街地の居住人口の増加を図る。

参考指標「年間商品販売額(小売業)」 目標設定の考え方認定基本計画 P.80～P.82 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H26	49,000 百万円 (基準年値)
H27	49,000 百万円
H28	44,853 百万円
H29	44,853 百万円
H30	44,853 百万円
R1	44,853 百万円
R1	54,000 百万円 (目標値)

調査方法：経済センサス活動調査  
 調査主体：川西市  
 調査対象：中心市街地の小売業店舗

### 2. 目標の達成状況【C】

年間商品販売額(小売業)の目標達成に資する事業である「オアシスタウンキセラ川西整備事業」は当初の予定より約5ヵ月遅れの令和元年8月に開業した。

開業後はキセラ川西の新たな商業拠点として集客やにぎわいの創出に寄与しているが、現時点で把握可能である平成28年度経済センサス活動調査の結果を活用したところ、中心市街地の年間商品販売額(小売業)は約448億円となっており、平成24年度の412億円を上回ったが、基準値の490億円からは減少となった。最新の実績が目標値及び基準値にも及んでいないため、達成状況はCとした。

### 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

・07:(仮称)キセラ川西商業複合施設整備事業(民間事業者)

事業実施期間	平成30年度～令和元年度【済】
事業概要	キセラ川西に温浴施設を含む商業複合施設を整備することで、中心市街地の利便性やサービス機能を高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 54,000百万円 最新値 44,853百万円 目標未達成
達成した(出来なかった)理由	開業が当初予定より約5ヵ月遅れたことと平成28年度経済センサス活動調査の結果が基準値を大幅に下回っているため、目標は未達成だと推測されるため。
計画終了後の状況(事業効果)	当初の予定より約5ヵ月遅れ、令和元年8月に開業した。開業後は多くの利用者が訪れ、利便性やサービス機能が高まっている。また、

	地域に密着したイベントなどもイベントスペースを活用して行われるなど、徐々に地域住民にも親しまれる場所となっている。
事業の今後について	キセラ川西の新たな商業拠点として、集客やにぎわいの創出の役割が期待されるとともに、キセラ川西でのイベントに協力してもらうことで中心市街地の回遊性の向上を図っていく。

#### 4. 今後の対策

年間商品販売額（小売業）の目標達成に資する事業である「オアシスタウンキセラ川西整備事業」は当初の予定より約5ヵ月遅れの令和元年8月に開業したこともあり、目標値に至らなかった。

今後、中心市街地エリアで（仮称）市立総合医療センターキセラ川西センター整備事業による医療環境の整備や民間マンションの建設事業が進むにあたって、中心市街地エリアへ訪れる人や居住人口の増加が予想される。訪れる人や居住者に中心市街地エリアを回遊しながら、消費活動につながるように魅力ある店舗づくりや生活に密着した商業機能を高める取り組みを行っていく。